

# ぶどうの木

2011年4月  
第93号  
聖アウグスチノ  
カトリック葛西教会

東京都江戸川区中葛西1-10-15  
03-3689-0014

## 苦しみから慰めへ

主任司祭 ヘース・ス・ダーニョ神父

皆さんご存知のように、今年（2011年）の三月の十一日、東北で強い地震と高い津波がありました。建物やいろんな物、多くの人々が津波に飲み込まれて失われるという、大きすぎる災害でした。福島原発事故による放射能汚染、健康や経済に与える影響が心配されています。住む場所、食料、放射線、飲料水など色々な問題があつて、特に被災した方たちは体も心も疲れ、困り果てています。

東京でも三月十一日にはずいぶん揺れましたが、幸い津波が来ませんでした。しかし今でも余震が続いていて安全についての心配があります。この大震災によって、東北の皆さんも関東の皆さんも皆苦しい状態にあるでしょうね。

苦しんでいる被災者の方々をどのように励ましたらいいのか、大変難しいと思います。悲しんでいる信者たち、特に仙台教区の信者さんたちにとのような慰めのことばを送った方がいいのか、応援するのもそんなに簡単ではないと思います。

外国と国内の活動団体の皆さんは団結して、被災者を助けたり、避難した人々のため住む場所や必要なものを分かち合ったり、献金を集めたりしています。

実際に、葛西教会の皆さんも団結して、特に

仙台教区への寄付をしました。また、この前、たくさんのフィリピン人たちが被災者として福島県から東京に来て、ある教会で避難生活を送りました。その避難所で料理を作ったり面倒をみたりしてサポートしながらボランティアとしてはたらいた信者さんたちもけっとういました。

しかし、被災者の皆さんは物質的な面だけではなく、精神的な援助も必要としています。被災者の皆さんが希望を失うことのないように、「日本頑張ろう」「日本は一人ではない」「日本の力を信じてる」などのいろんな応援のことばがテレビにも登場しています。

教会の皆さんも、被災者が神様に希望を置くことができるように、また、信者の被災者が復活されたイエス様にとどまり、大きな苦しみの中にあつても、くじけることなくイエス様の復活の力によって頑張って生活を取り戻すことができますようにと、神様に願っております。

信者として私たちは、復活されたイエス様を信じております。イエス様は苦しみと死に打ち勝ちました。私たちは、信仰のうちにキ

リストと一つになるから、その勝利にも、復活の栄光にもあずかることになりません。このような信仰を持って、信者として私たちは今の苦しみをゆだねましょう。その時、神様が助けて下さるからです。神様の助けが来るときには、苦しみが慰めになります。福音に書いてあるように「悲しみが喜びに変わる」

と。  
喜びと言え、ご復活は教会の大きな喜びの季節です。なぜなら、イエス様が復活され、今生きておられることを祝うからです。キリストの復活と共に、私たちもその復活にあずかります。皆さん、ご復活祭おめでとうございます！



津波で根元から倒れた松の木  
いつの日か、また、  
美しい枝葉を見せてくれるでしょう

## WHISPERING HEART



Leaving the shore of my native land was not easy for me. Honestly, I felt the tug-of-war between my physical emotion and the mystery of my vocation. But though I am in the midst of my personal decision, wise enough I embrace the mystery of His call.

I know some of you if not all are interested to know the mystery behind my priestly vocation. (Vocation comes from the Latin word *vocare* which means calling.) This might be unusual words for some, but for those who search for a vivid explanation.? The books of Isaiah 43: 1 and Proverbs 12:14 onwards might help you to gratify your curiosity.

As a religious priest for seven months now, tried to join and finally sail on the boat of Jesus with the passion to stay and help to evangelize the shore of Japan. I fully aware and understand that riding on the boat of Jesus carrying the words of Christ is not easy. It entails a lot of challenges and patience, challenges that would touch my physical, psychological, emotional and spiritual as a human person. That's why I always ask the Holy Spirit to be on the rescue, most especially if I am on the edge of troubles of losing the direction of my promise, as a religious priest in the shore of Japan.

Leaving the place which I called home for 35 years requires effort and adjustment on my part. I say effort, because I need to learn the language. And, I call it adjustment, because of the culture and tradition, without counting the pressure lying on my shoulders as a priest.

Yes, deep inside me, I felt sad; but, because of the warm and welcoming hand of my new community here in Japan, that sad feeling turned into an experience of happiness. This happiness that I experience now helps me a lot to resolve the effort and adjustment of my "homelessness" (Genesis 22: 8).

Honestly, I am not well-versed when it comes to the scriptures. But, undoubtedly, 'homelessness' is a natural expression of an individual uprooted to the ground of his comfort zone. I guess, every human person feels that way. However, with my new experience here in Japan, that 'homelessness' in my heart is overcome by the smile and comfort of my Augustinian confreres here in Japan, without mentioning the generosity of the whole vicariate and the community here in Tokyo.

While writing this article, I am in the limbo of joy that fills up the hole of my wholeness. I am not saying these words because I am standing in the land of the rising sun at present. I am saying these, because I believe without doubt that in the Augustinian family, no one is stranger to one another. (From the book of the Confession of Saint Augustine chapter X)

True enough, it is my first time to meet them, but because of the Rule of our Holy father Saint Augustine, we live harmoniously in the spirit of 'Anima una et cor unum ad Deum' one mind and one heart on the way to God.(Rule of Saint Augustine) *arigato gozaimas*.

Charlie Pomuceno, O.S.A.

# 2011年 信徒総会報告

アウグステイヌス 佐藤隆一

日時：2011年3月6日

十一時三十分～十三時

場所：カトリック葛西教会 聖堂

配付資料：2011年カトリック葛西教会

信徒総会資料

総会議題

- 1、ジエス神父様ご挨拶
  - 2、本橋教会委員長挨拶
  - 3、委員会報告及び各部会報告  
2010年度の委員会の経過報告  
各部会より信徒総会資料の補足説明、及び世話人のメンバー紹介がありました。
  - 4、会計決算報告と予算案  
【一般会計、建設会計、一粒会会計】  
会計の今井さんより、2010年度決算と2011年度予算案の報告がありました。
- 【信者会計】  
会計の平さんより、2010年度決算と2011年度予算案の報告がありました。  
一般会計、信者会計ともに会計監査の承認報告があり、拍手をもって承認されました。
- 5、年間行事予定報告  
信徒総会資料(26～27頁)をもとに、2011年度の上期教会行事予定をお知らせしました。

6、教会執行部委員紹介

委員長：本橋俊和

副委員長：森山ハツエ、佐藤隆一

副委員長(兼)書記：中島敏之

会計：平 淳子

以上五名が、任期2年間の規定により後半の1年間の任にあたる事を、拍手をもって承認されました。

最後に各部会及び決算と予算に対する2、3の質疑に対応し、ジエス神父様により終わりの祈りを捧げ、2011年度信徒総会を終了いたしました。

皆様のご協力に感謝いたしますと共に、これからどうぞよろしくお願いいたします。



補修工事も無事に終了し、  
聖アウグスチノ修道会のシンボルマークも  
新しく取り付けられました

主のご復活おめでとつございませう。

マリヤ 横濱寿江

女性部と名称を変えて2年目になります。

1年目は、「私が代表者?!」 うそ〜どうしよう〜」ってな状態でした。ですが、たくさんの行事があったので、悩んでいる暇もないほどで逆に助かったっていうのが本音でしょうか。世話人の方たちと福祉部の方たち、その他たくさんの方たちが温かく力をそそいで下さいました。困った時、たくさんの方たちが祈って下さいました。たくさんの方たちと教会での仕事をさせてもらえる喜びを、本当に幸せに感じる事が出来ました。女性部の世話人をやっていなければ解らなかった事がたくさんありました。教会の仕事をして下さっている方々に感謝する事さえ知らずに過ごしていたかもしれせん。そして、あっという間に1年が過ぎて、今年の世話人メンバーは、佐藤 望さん(清新町) 藤田則子さん(行徳) 小川 昌実さん(葛西II) 笹島泰子さん(葛西II) 横濱寿江(浦安) この5人でのスタートです。みんなパワフルで笑顔の素敵な優しい人達ばかりです。

世話人メンバーはまだまだ募集中です!!  
神様の元で喜びをもって一緒に働きませんか?! 是非お声をかけて下さい。

何が出来るかは解りませんが、皆で相談しながら、祈りながら喜んで働いていたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。主のご復活おめでとつございませう。

# たくさんの方の情熱をありがとう!! シスター・レミがフィリピンに帰国

津田 真由美

“シスター・レミ”の愛称で知られる、Sister Remedios Locsin（聖母被昇天修道会、Religious of the Assumption）が2011年3月末、日本での36年間のミッションに終止符を打ちフィリピンに帰国された。1975年に初来日なされ、大阪府箕面市の聖母被昇天学院にて英語教師を務められた。1980年代からは、出稼ぎで来日しているフィリピン人（多くは女性）たちのために英語（フィリピン語）ミサや祈りのグループを提供したり、様々な問題への対処に東奔西走したりするようになった。稀に見る行動力と、豊富な人脈を駆使し、多岐にわたる奉仕活動で多大なる功績を残された。また、飾らない人柄で老若男女・国籍を問わず、多くの人々から圧倒的な人望を集めておられた。

そんなシスター・レミが16年ほど前に東京に移られてから、とりわけ精力的に取り組んできた活動のひとつに、日比青少年教育プログラム（Japanese Filipino Youth Program）がある。カトリック葛西教会を拠点とし、日本人とフィリピン人の間に生まれてきた、いわゆる“ダブル”と呼ばれる多感な青少年少女たちのアイデンティティ形成を、カトリックの教えをベースに促進することを目的とする。サマーキャンプ、フィリピン研修、チャリティーコンサート、リーダー育成ワークショップといった活動を通じ、JFYが父と母のふたつの国と文化に関して理解を深めながら視野を広げていけるように指導して下さった。

シスター・レミは、国際教育プログラム運営を専門としているChildren's International Summer Villages (CISV)からの講師を招いて、高校生・大学生のJFYリーダー、次世代リーダーの育成に、近年、とりわけ力を注いできた。CISVが提供する教育プログラムを導入し習得することで、若者がリーダーシップやコミュニケーション力を身に付け、学んだスキルで独自のJ F Yの教育プログラム構築が実現できるようになった。

シスター・レミが育て上げてきた芽を、次世代のリーダーたちは確実に引き継いでいくことになる。彼女の情熱が、これからいつまでも、我々の中に宿り続けるからだ。

シスター・レミ、マラミン マラミン サラマッポ。



### 「アウグスチノ会の召命」を 皆様とともに祈って

パドアのアントニオ 本橋 俊和

皆様の祈りと支えによって、昨年一年間、「支え合う教会になる為に」をテーマに、共に活動してまいりましたが、今年度も一年、教会委員長として皆様とともに歩んで行きたいと思っております。

さて今年のテーマは「日本のアウグスチノ会の召命の為に」とさせて頂きました。「支え合う教会となる為に」を降ろしたわけではありません。このことはやはりとても大事なことで一歩づつ前に向かって活動していかなければなりません。しかし、今のアウグスチノ会の現状を見ると、松尾太さんが修練に出ると国内で学ぶ神学生がいなくなってしまう。日本も教区も神父様は不足してしまいます。わたくしたちの身近なアウグスチノ会の召命の為に、をテーマにしました。一人の人間の成長には祈りと多くの人たちとの関わりが大切なことだと思えます。周りにいる子供たちに神学生への誘い機会あるごとししていく、教会ファミリーとして成長の手助けをしていきましよう。

現在社会は核家族を越え「孤」になりつつあるように思われますが、教会に来られる子供たちのご家族は、やはり神様の聖霊を受け家族の関わりがとても良いように見られます。この子供たちを皆で育み、成長の手助けをしながら召命を祈っていきたいものです。

皆様のご協力をよろしくお願いたします。皆様の上に神様の豊かな聖霊が

ありますように。



↑ 聖母被昇天修道会 (Assumption) のシスターとして来日  
↓ JFYリーダーたちとCISVメンバーと一緒に



↑ 送別会でのシスター・レミー



↓ 人脈を活かし、  
日本とフィリピンの架け橋となる



## 新部『営繕部』について

トミニコ 佐々木 満夫

昨年は建物管理部として、皆様方の多くのお祈りとご協力を得ながら、無事、補修工事を完成させることができました。その節は、本当にありがとうございました。

諸々の事情によって、建物管理部を一旦、発展的に解消し、今後は『営繕部』として、この葛西教会のこまごまとした修繕や維持・管理につとめたいと思います。

例えば、聖堂の天井のランプ切れを直したり、ガラス窓の網戸の補修をしたり…。数え上げれば、切りが無いくらいの仕事があります。今、気になっているもの一つに、駐車場の屋根を補修することです。お金をかけず、見栄えのよいものにしたいたのですが、なかなか良い案が浮かびません。どなたか、お知恵を貸して下さい。

もう一つ気になっていることに、教会全体で使っている「電気」のことがあります。今はやりのLEDに変えたら、電気料金が少なくなるのではないのでしょうか。あるいは、ソーラーパネルを取り付けたらどうでしょうか。それとも、自家発電を考えたらどうでしょうか。いろいろ考えると、寝られなくなってしまう。

小さなことを、一つ一つ解決していきたいと思っています。皆様からの、ご意見・ご要望を、お寄せください。そして、アイデアとお力を、今後ともよろしく願います。

## 教会学校のリーダーになって

幼きテレジア 長澤 有子

私が初めて教会学校を訪れたのは、シスター野村に誘われて一緒に学校についていった時でした。それまであまり子どもたちと接することはなかったのですが、本を読んで聖書の勉強をしたり、遊んでいる子どもたちを見て新鮮な気持ちになりました。その後リーダーになり、子どもたちと一緒に勉強することになりました。

私が担当することになった3・4年生クラスでは主に旧約聖書を学び、本を読んだり絵を描いたり、たまにはゲームもしました。かかるたでチーム対戦すると盛り上がり過ぎてなかなか終わらないこともありましたが、御ミサでは侍者や献金箱を祭壇に運んでいる子どもたちの姿を見て感心しました。

教会学校では、年間を通して色々な行事があります。ロザリオの祈りや四旬節とクリスマスには黙想会があります。暖心苑では歌や



カードのプレゼント。クリスマスにも歌を歌います。特にあきる野や御岳山に行ったサマーカーンプでは、自然に囲まれた中で日常を離れて貴重な体験ができました。山登りや川遊び、バーベキュー、肝試し、テゼの祈り、花火など盛りだくさんで、参加するにつれて楽しくなりました。

最初に会った子どもたちは今では成長してリーダーとして活躍してくれ、とても頼もしく、一緒に教会学校を盛り上げていってくれたいと思います。葛西教会の教会学校に關われたことに感謝。これからもよろしくお願ひいたします。

☆☆☆☆

## 洗礼を受けて

私、平野義也80歳は2010年12月25日の聖日、聖アウグスチノカトリック葛西教会に於いて柴田神父司祭の下で洗礼を受けることができました。

フィリポ 平野義也

式は沢山の皆さんの見守る中、とても厳粛に行われました。そして、沢山の方々から祝福の言葉やプレゼントを頂いた時、葛西教会の一員になった実感と信者としての責任を自覚しました。フィリポと言う聖名を頂くことができました。

今回の洗礼に関しては、娘の大木真理と伊藤シスターのお骨折りに依って実現したものです。

聖書を読んでも、参考書を読んでも私の知識では理解できない事が多く、また疑問もあります。しかし、柴田神父の「信者としての最小限の務めは、朝と夜に神に感謝の祈りを捧げることです」と言われ、それなら私にも出来るかと思っただのが正直な気持ちです。

両国の千歳と言う下町に生まれ育ち、その下町で結婚し子供を育て、PTAの役員や町会役員として、地域活動に努め多くの友人知人と共に、やれお祭だ、温泉旅行だ、趣味の会だと70年間過ごしてきました。

そうした下町独特の連帯感の中であって、人生の孤独感や寂しさなんかは一度も感じたこともなく、信仰についての思いなど気づく間もありませんでした。訳あって離婚し、葛西に移り住んでから、娘真理の誘いで葛西教会へ伺うようになりました。

皆さんのお蔭で、今日私の人生にとって記念すべき日を迎えた訳ですが、神父のお話にあった「目に見えない世界」に自分の心を委ね、学び、祈ることによって少しでも何かが見えたら幸いです。思っております。

今後とも宜しくお願い致します。

